

⑥総合評価による視点場地点の絞り込み【6. 2】

総合評価では、加点法により各指標（被視頻度、目立ち度、意味深度、関係度、シーケンス度）間における重み付けを行い視点場候補地の総合評点を算出し、さらに優先法により、視距離パターン（遠、中、近景域）、土地利用パターンを踏まえ、技術的検討レベルにおける最終視点場として設定した。

加点法^{※11}では、特に重要度の高い指標について+1ポイント与え、本マニュアル第3部で示した計算方式に基づき、総合評点を算出していき「リスト表」に記入した。

※11

『6.2.1 加点法による絞り込み（P148）』参照

■加点法による指標間の重み付け

① 地点 番号	② 公設の場 所	③ 重要 度	④ 視点場 候補地 写真	抽出基準⑤の指標						総合評価								
				⑤-1 視距離パターン		⑤-2 重要度の評価ポイント				⑤-3 重要度の評価					⑥ 総合 評価	⑦ 抽出 結果	⑧ 重要 評価	
				遠景の内部	中景の内部	遠景 外部	中景 外部	近景 外部	近景の 内部	遠景 外部	中景 外部	近景 外部	近景の 内部					
1	河野自來水	12		役場	駅舎は地域のシンボル	3	3	2	2	1	2	1	1	1	1	15		
2	豆腐蔵	7																
3	河野自來水	14																

地点番号1（S駅）の重み付けは、駅であることから利用者特に当該地区では観光客の利用が多いため、被視頻度を+1ポイントし、比率を2：1：1：1：1とした。

結果

$$\begin{aligned}
 \text{総合評点} &= \text{被視頻度 } 3 \times 2 + \text{目立ち度 } 3 \times 1 + \text{意味深度 } 2 \times 1 + \text{関係度 } 3 \times 1 \\
 &\quad + \text{シーケンス度 } 1 \times 1 \\
 &= 6 + 3 + 2 + 3 + 1 \\
 &= 15 \text{ 点}
 \end{aligned}$$

となった。

他同様にして重み付け及び計算を行った。

※12

『6.2.2 優先法による絞り込み（P150）』参照

優先法^{※12}では、まず各視距離パターン（遠、中、近景域）から、加点法で算出された総合評点の高い候補地点をそれぞれ1地点抽出した。本地区では、遠景域の候補地点に同点（地点番号1（S駅）；15点、地点番号14（M橋）；15点）の地点があったため、計4地点となり、ここまでの結果を「リスト表」の優先抽出欄に○でチェックした。

次に、土地利用パターンから同様に地点候補地点の絞り込みを行った。

結果、視距離パターンからの抽出において、③で確認された4パターンの内、1-C、2-A、2-Bの3パターンからは抽出されていた。

そこで、残りの2-Dから最も総合評

■表 3-7 視距離パターンからの抽出

地点 番号	視点 場名	視点 場域	土地 利用	総合 評価
1	S 駅	遠	2-B	15
14	M 橋	遠	2-B	15
18	交差点	近	1-C	10
22	観光体験農園	中	2-A	14

土地利用パターンにより新たに抽出

■表 3-8 総合評価結果

地点 番号	視点 場名	視点 場域	土地 利用	総合 評価
1	S 駅	遠	2-B	15
14	M 橋	遠	2-B	15
18	交差点	近	1-C	10
22	観光体験農園	中	2-A	14
12	ペンション村	遠	2-D	12

参考資料：実証事例

点の高かった地点番号13（ペンション村）；12点を新たに追加した。

結果として、総合評価において、技術的レベルにおける抽出視点場地点として、5つの視点場が設定された（「リスト表」の総合評価欄に○をチェック）。

工区番号	工区名称	工区番号	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	立地写真		設計書の記載										検査結果											
					工区写真 の添付	工区写真 の添付	立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付		立地写真の添付							
							写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真	写真1 正面からの写真	写真2 側面からの写真						
1	工区1	13					2-0	○	○	駅	○	地形図	○	図例	町会では地味に レンガ	2	3	2	3	1	2	1	1	1	1	15	○	○
2	工区2	7					2-4	○	×	駅	○	地形図	○															
3	工区3	14					2-8	○	×	駅	○	地形図	○															
4	工区4	11					2-4	○	×	小中学校	○	地形図	○															
5	工区5	15					2-8	○	×	駅	○	地形図	○															
6	工区6	4					1-0	○	×	駅	○	地形図	○															
7	工区7	2					1-0	○	○	駅	○	地形図	○	図例	町会では地味に レンガ	4	0	2	0	0	2	1	1	1	1	10		
8	工区8	5					2-4	○	×	駅	○	地形図	○															
9	工区9	17					2-8	○	×	駅	○	地形図	○															
10	工区10	16					2-8	○	×	駅	○	地形図	○															
11	工区11	10					2-4	○	△	駅	○	地形図	○			2	0	2	0	0	1	1	2	1	1	6		
12	工区12	21					1-0	○	×	駅	○	地形図	○															
13	工区13	12					2-4	○	○	駅	○	地形図	○	図例	町会では地味に レンガ	2	2	2	3	1	1	2	1	1	1	12	○	
14	工区14	9					2-8	○	○	駅	○	地形図	○			3	4	2	3	0	2	1	1	1	15	○	○	
15	工区15	6					2-8	○	×	駅	○	地形図	○															
16	工区16	20					1-0	○	×	駅	○	地形図	○															
17	工区17	19					1-0	○	○	駅	○	地形図	○			2	0	0	0	2	2	1	1	1	1	6		
18	工区18	1					1-0	○	○	駅	○	地形図	○			2	4	0	0	2	2							

■図 3-45 「リスト表」整理イメージ

参考資料:実証事例

4. 本マニュアル第3部による視点場設定手法の実証結果

視点場設定に至る全体の流れについては、実際の作業の流れも円滑に進み、効率よく検討が行えた。また、視点場の絞り込みに付いても、各段階でほぼねらいどおりに絞り込むことができ、視距離や見え方の観点からもバランス良く5地点が設定できた。このことから、マニュアルとしては、現地での適応性は高く、その検討の流れも妥当であることが確認できた。さらに、「チェックリスト」の抽出観点や重要度のポイントを基に、視点場の抽出や評点を行ったが、結果的に設定された最終視点場の5地点を勘案すると、これらも妥当であると判断できる。

課題としては、現地調査の際に対象施設の位置や高さによる可視、不可視が確認しづらい場合が想定されることであるが、これには、先述したようにバルーンを用いた手法など、目印を設置する等の工夫により対応が可能である。